

ハーバード大学公衆衛生大学院（HSPH） 武見プログラム視察について

1. 出張日程：平成 28 年 8 月 28 日（日）～9 月 2 日（金）
2. 出張先：ボストン（アメリカ）
3. 出張者：横倉会長、松原副会長、道永常任理事、阿部計大（JMA-JDN）
（随行）能登国際課長
4. 内 容：

横倉会長、松原副会長、道永常任理事、阿部計大医師（JMA ジュニアドクターズ・ネットワーク）が 31 日にハーバード大学公衆衛生大学院（HSPH）武見国際保健プログラムの視察を行った。

マイケル・ライシュ主任教授とジェシー・バンプ准教授との面談では、横倉会長から日本の医療の現状と課題として、消費税 10% 引上げ延期による医療財源の問題、高齢化対策、都道府県における医療提供体制の見直し、高額医薬品における財政的課題、感染症、薬剤耐性の問題、“One Health”（人と動物の共通感染症対策）における獣医師との連携、本年 11 月開催「世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議」、さらに医療の国際貢献として、政府によるアフリカ支援が経済面だけでなく、エボラ出血熱等の公衆衛生危機にも対応するためのユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成等への協力等、医療が含まれたことにも触れた。ライシュ教授からは、来年東京における武見シンポジウムを企画していることの提案があり、「地域医療システムの構築と皆保険の実現」「Building Community Healthcare System – Moving Forward to Universal Health Coverage –」に向けた取り組みをテーマとして考えていることが示された。

続いて、本年 7 月 1 日に就任したミシェル・ウィリアムズ学院長と面談し、1983 年の設立以来 30 有余年にわたり途上国を主とした 50 を超える国から 270 名を超えるフェローが参加し、国際保健、公衆衛生を学ぶというユニークな学際的プログラムとして、ハーバード大学において武見プログラムは高い評価を得ていることの認識を改めて共有し、本会の協力の下で将来にわたり当プログラムを継続していくことを双方で確認した。

その後、11 名の武見フェローによる研究内容の報告（後出）を受け、横倉会長がそれぞれにコメントを述べた。第 33 期となるフェローには、当日欠席となったエチオピアとブルキナファソのフェローを加えた 6 名がアフリカからのフェローとなるなど近年低所得国からのフェローが増加している。これは、2013 年の当プログラム設立 30 周年記念事業として日本製薬工業協会が新たに設けた奨学金制度がその効果を表してきたことによるものである。

6. 2016-2017年武見フェロー報告者

| 氏名 | 所属 | 研究テーマ |
|--------------------------------------|--|--|
| Tuba Agarfan (トルコ) | プロビデンス大学准教授 | トルコにおける医療人材の管理 公共部門の医師と改革 |
| Shou-Hsia Cheng (台湾) | 国立台湾大学公衆衛生学部衛生 政策管理研究科教授 | 米国における医療費負担適正化法 の下での医療保険制度改革戦略：プ ログラム及び解釈の研究：台湾にと つての教訓 |
| Lilian Dudley (南アフリカ) | ステレンボッシュ大学医学保健学 部保健システム・サービス研究セ ンター創設者 | 南アフリカ西ケープ州における退院 後の結核患者のケアの継続性の改善 |
| 江口 尚 (日本) | 北里大学医学部公衆衛生学助教 | 日本版職場のソーシャル・キャピタル 尺度の開発 |
| Ramiro Guereo-Carvajal (コロンビア) | Icesi 大学 PROESA 所長 | コロンビアにおける有給出産休暇と 最低定年制度が健康と福祉に与える 影響 |
| Hongsoo Kim (韓国) | ソウル国立大学公衆衛生大学院 医療管理政策部准教授 | 韓国と米国における高齢者の回避可 能な入院サービス利用：二国間研究 |
| Hayward Mafuyai (ナイジェリア) | ジョス大学長 | ナイジェリアにおけるマラリア撲滅 プログラムの評価 |
| Geogiana Yaa Oduro (ガーナ) | ケープコースト大学上級講師 | ケープコーストにおいて拡大する小 児売春の現状 |
| 大川 純代 (日本) | 東京大学大学院医学系研究科 国際地域保健学教室特任研究員 | ガーナ、ミャンマーにおける母子保 健の統合継続ケアモデルの開発 |
| Myoungsoon You (韓国) | ソウル国立大学公衆衛生大学院 准教授 | 韓国における医療リスク・ガバナン ス：説明責任とリスクコミュニケーションの課題 |
| Nikechi Inyeneho (ナイジェリア) | ナイジェリア大学上級講師 | ナイジェリアにおける既婚女性とそ の子ども貧血性疾患のパターン： 総合的コーホートと分析 |

ハーバード大学公衆衛生大学院（HSPH）

武見国際保健プログラム

1. 名称：ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム
2. 所在：Harvard School of Public Health（HSPH）
3. 指導：マイケル・ライシュ主任教授（Taro Takemi Professor）
ジェシー・バンプ准教授

4. 歴史

ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム（以下、武見プログラム）は、医療資源の開発と配分を提唱し、国際保健に功績のあった武見太郎元日本医師会長の功績を称え、1983年にハーバード大学が日本医師会の協力の下、同大学公衆衛生大学院に設立した中堅の医療従事者のための研究・高度研修プログラムである。今年度のフェローを含め、これまでに日本人フェロー59名を含む54カ国271名の武見フェローが研鑽を積み、各国の大学、官民研究所、政府保健当局、非政府組織、国際機関といった国際保健の第一線で活躍するなど、その国際ネットワークは世界中に広がっている。同プログラムに参加した武見フェローの専門は、経済学、栄養学、看護学、医学教育、地域医療、疫学、生命倫理学、医療サービスの利用、感染症、社会学、救急医療、医療保険、労働衛生、政策学など多岐にわたる。

5. 日本医師会による支援

日本医師会は武見プログラムの設立当初よりその活動を支援し、毎年2名の日本人フェローを選考し奨学金を付与して送り出している。また、役員によるプログラムの視察及び指導教授、学部長との面談を毎年行うなど、その運営にも深く関わっている。2013年度からは公益社団法人として、寄付金の受入れ及び送金を行っている。

6. 日本製薬工業協会（製薬協）による財政支援

製薬協から武見プログラムに対し、運営費（1994年～）及び低所得国フェローを対象とした奨学金制度（2014年～）の財政支援が行われている。

Takemi Fellow Regional Distribution 1984-2016

271 Fellows from 54 Countries

